

2020年度 CSIS 共同研究

No. 422

# フードデザート問題防止のための潜在的危険地域の 定量的予測に関する研究

## 報告書

2020年03月

### 研究代表者

東京大学大学院工学系研究科/教授/浅見泰司

### 共同研究員

金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系/助教/関口 達也

### CSIS教員

浅見 泰司

No. 600 フードデザート問題防止のための潜在的危険地域の定量的予測に関する研究

研究代表者：関口 達也（金沢大学 理工研究域 地球社会基盤学系）

### 研究内容：

本研究は、近年の日本でも各地で問題が顕在化してきている食料品の買い物弱者問題に焦点を当て、問題が発生している地域における調査・分析を行う。それらの結果に基づき、今後、問題の発生が予測される地域の発見や、その地域で発生しうる問題を事前に予防する対策に向けた知見を得ることを目的としている。

### 2020 年度報告：

コロナ禍により現地へ赴くことはできなかったが、以下に示すように既存の調査・分析結果の論文化や、Web アンケートによるデータ収集・分析を中心に行った。

#### 1. 移動販売事業の利用場所の空間的特徴や購入される商品の特性の把握

高島平地域（東京都板橋区）において、買い物弱者対策として運用されている移動販売車の GPS データと購買記録を紐づけ、その利用実態を分析した。成果を国際誌で発表した（主に 2019 年度の調査・分析の成果に基づく内容）。

#### 2. 高経年住宅団地における買い物環境が、買い物の不便や苦勞（食料品の入手の不自 由）や食品摂取に及ぼす影響

高経年団地として、高島平団地（東京都板橋区）を対象に、調査分析を行った。具体的には、以下の2つの Research Questions を設定し、統計解析や多変量解析により、分析を行った。

RQ1) 買い物における食料品の入手の不自由の有無は、利用店舗に対するいかなる主観的評価により説明できるのか？

RQ2) 買い物において食料品の入手に不自由を感じる環境下にある事は、個人の購買行動、食品摂取にいかなる悪影響を及ぼすのか？

分析結果は、論文としてまとめ、日本都市計画学会の学術発表大会にて発表を行った。

#### 3. 徒歩での買い物時におけるアクセス不便を規定する詳細な道路環境要因の解明

徒歩での買い物時における店舗までのアクセス性の不便は、人々を買い物弱者たらしめる、重要な観点の一つである。ただし、これまで、距離以外の道路環境要素が、店舗までのアクセス性不便に及ぼす影響は、十分に分析されていない。

そこで、徒歩での買い物を行う人々が多い東京都を対象に、調査を実施した。具体的には、東京都に居住し、普段から徒歩で買い物を行う人々1000人を対象にウェブアンケートを行い、買い物環境全体の評価や、店舗アクセス・店舗質の評価、さらに店舗アクセスの不便に関わりうる道路環境要因の利用許容度や実際の不満度などの調査データを収集した。調査データは現在、分析を行っている。

今後は、様々な属性の人々が避けたいと感じる傾向にある道路環境要因の特定や、それらの利用を回避できず、実際に不満を感じている人はどれくらいいるのか、それらの各要素への不満のうち、実際に店舗までのアクセス不便に関わるものを抽出するなどの分析を行い、人々がアクセス性の不便がなく買い物を行う事の出来る道路環境づくりに向けた知見を獲得していく予定である。

#### 主な発表論文：

・ Tatsuya Sekiguchi, Kimihiro Hino. "How Mobile Grocery Sales Wagons Can Help Disadvantaged Shoppers in Residential Areas Around Central Tokyo: Characteristics of Spatial Distribution of Usage Places and Purchased Items", *Sustainability* 13(5), 2634, Mar.2021. DOI: 10.3390/su13052634

・ 関口達也・ 樋野公宏(2020)「食料品の買い物環境に対する多様な主観的評価が購買行動や食品摂取に及ぼす影響」, 都市計画論文集, **55**(3), pp.1013-1020